

初期臨床研修医の研修満足状況と それに関連する因子の検討

さ の ち あき¹⁾ ふ の よし ひと¹⁾ よし おか こ
佐 野 千 晶¹⁾ 布 野 慶 人¹⁾ 吉 岡 みち子¹⁾
の じま よし あき²⁾ たに ぐち えい さく¹⁾
野 島 慶 明²⁾ 谷 口 栄 作¹⁾

キーワード：初期研修，研修満足，満足との関連要因

要 旨

【目的】初期臨床研修医の研修満足状況とそれに関連する因子を明らかにする。

【方法】しまね地域医療支援センターが島根県内の初期臨床研修医を対象に実施した研修終了時アンケート（2013年度～2017年度；5年分）を用いた。

【結果】現在の研修に対する総合的な満足状況は、「全くそうである」（28.8%）、「まあそうである」（64.4%）と、非常に高かった。「全くそうである」と強く関連した因子は、「コメディカルがよい」（オッズ比17.00）、「研修プログラムの充実」（オッズ比13.87）、「高度な医療が研修できる」（オッズ比11.65）であった。

【考察】研修満足状況を更に改善するためには、初期臨床研修医とコメディカルスタッフとの関わり、研修プログラムの内容、より高度な医療の研修について検討とともに、個々の研修医ニーズに配慮する必要があると考えられた。

はじめに

2004年の医師法改正により、医学部卒業後2年間の医師臨床研修が義務化した。この目的は「医師が、医師としての人格をかん養し、将来の専門分野に関わらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療においても頻繁

に関わる負傷又は疾患に適切に対応できるように、基本的な診療能力を身に付ける（医師法第16条の1第1項に規定する臨床研修に関する省令）」と明記されている。

このため、2年間は大学医局への入局者が激減し、その後、初期臨床研修（以下初期研修という）を終えた3年目の医師の入局者も義務化前の約7割程度にとどまり、大学内の人材不足により、これまで大学が実質的に担ってきた医師派遣機能が弱まった¹⁾。特に地方大学の入局者減少は、地方にある市中病院の深刻な医師不足へ波及した。

Chiaki SANO et al.

1) 島根大学医学部地域医療支援学講座

2) 広域連合隠岐病院

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部地域医療支援学講座